

## ・ 韓国のボランティア活動の変遷と現況

### 1. 伝統的ボランティアから近代的ボランティア、行政支援のボランティアへ

ボランティア活動の考えにつながるものとしては、韓国でも古くから行われていた「相互扶助」が挙げられる。特に農村社会において、互いに労働力を提供する「ドゥレ-( )」や「プマシ( )」等<sup>1)</sup>の共同作業の慣行があった。これらはボランティア活動の源流であると言えるが、自発的な活動というよりは、むしろ共同体内での義務として行われてきた。また李朝においては、農民だけでなく両班も「契( )」や「郷約( )」<sup>2)</sup>により相互扶助を行っていた。「近代以前の時代に人々が地域共同体の中で生活していた頃は、相互依存の考え方こそが自然なものであったろう」と金子郁容(1992)も言うように、当時は地域共同体社会内での相互扶助、つまり筆者が言う「伝統的なボランティア活動」が行われていた。

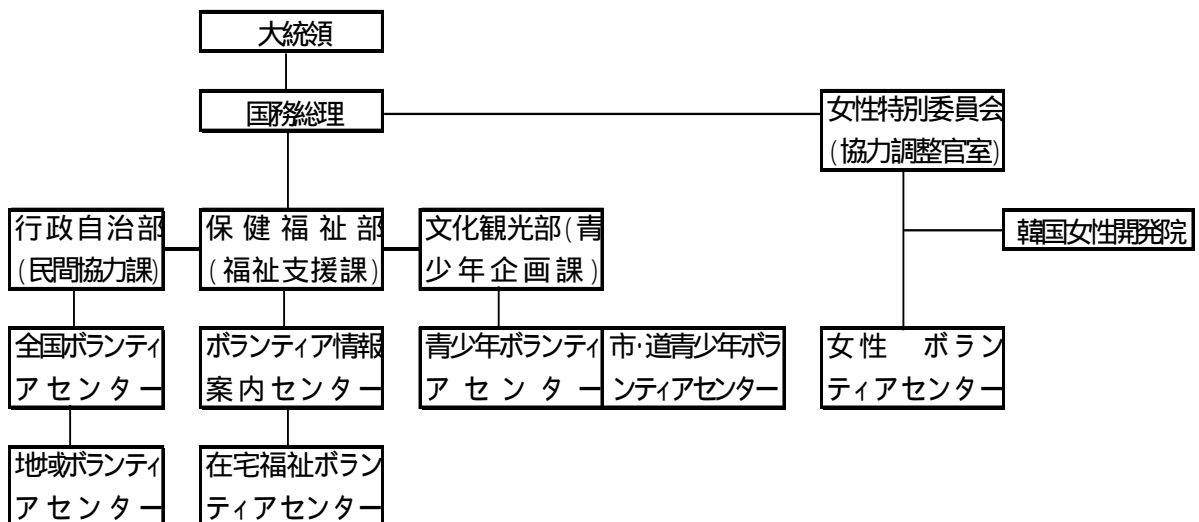
1920年代、韓国でキリスト教が活発になるとともに、韓国 YMCA、韓国 YWCA、韓国赤十字社が設立された。韓国 YWCA は韓国で最初の近代的意味でのボランティア活動を行った(韓国女性開発院、1984)と言われ、この頃からキリスト教精神に基づく慈善活動が地域社会で積極的に展開され始める。ボランティア活動は、歴史的にはキリスト教の教えに基づいて行われてきたので、困窮者を助ける宗教的・道徳的行為として理解されてきた。また、これらは共同体社会の構成員以外も対象となるという点で、伝統的ボランティア活動とは異なる。1947年には大韓赤十字社内に赤十字婦女奉仕隊が発足する。これは一般女性が初めて組織した活動である。50～60年代は女性団体の会員が中心となり、戦争被災民に対するボランティア活動を行い、当時女性がボランティア活動において活躍していたことがうかがえる。また同60年代は、大学生が中心となって農村奉仕活動が展開、また赤十字運動も活発に行われた。70年代には「勤勉・自助・協同」のスローガンのもとにセマウル運動<sup>3)</sup>が始められ、国家政策により農民の自助が奨励された。しかし韓国の人々のボランティア活動に対する認識や意識はまだ低かった。

ボランティアという言葉が初めて導入されたのは、1978年だと言われている。韓国社会福祉協会内にボランティアセンターを設立するための準備委員会で“volunteer activities”の韓国語訳として「自願奉仕活動( )」という語が初めて使用された。外来語として受容されたボランティア活動は、伝統的な助け合い活動やキリスト教精神に基づく慈善活動とも徐々に融和し、定着していった。79年には、江南大学社会事

業学科で初めて「ボランティア論」という科目が設置され、80年代になると、地方の社会福祉協議会がボランティア関連事業を全国的に展開し始めた。そして一般市民にボランティアという用語が浸透したのは、1988年に開催されたソウルオリンピックであると言われている。この時、マスコミを通じて「88オリンピック・ボランティア」を募集・活用したことがきっかけとなり、一般市民にボランティアについて広く広報することが出来た。

90年代に入ると、政府がボランティアに関する提言や施策を積極的に行うようになる。92年には女性開発院が、女性ボランティアセンターの運営を始め、また94年には韓国ボランティア団体協議会が設立され、ボランティア団体を連結、活動に関する情報交換などを行うようになった。95年には教育部が「5.31教育改革」を実施、これにより中学校・高等学校でのボランティア活動が制度化された。この改革は体験的ボランティアを通じた学習への転換を意図したものである。96年、文化観光部は、各市・道に青少年ボランティアセンターを設置、また行政自治部は、地域ボランティアセンターを設立した。これにより、3つの部署と1つの委員会がそれぞれにボランティアセンターを運営する形になった。

< - 1表：韓国政府の部門別支援ボランティアセンター >



出著：ボランティア 21 (1998):「21世紀とボランティア活動」ボランティア 21 定期セミナー資料集 2

備考：保健福祉部のボランティア情報案内センターは韓国社会福祉協議会付設。文化観光部の青少年ボランティアセンターは韓国青少年開発院付設で、中央センターはソウルにある。

上記のボランティアセンターはそれぞれ独自に、ボランティアの教育・広報・ボランティアコーディネーターの養成・ボランティアプログラムの開発と普及などの業務を行っている。

このように韓国におけるボランティア活動の歴史を振り返ってみると、ボランティア精神は過去から受け継がれ、また行政の積極的な主導により、韓国の人々に徐々に広まってきたと言える。

---

(注)

<sup>1</sup> 「ドゥレー ( )」: 農民達が田植えや草取りを共同で行うために作られた村落単位の組織。  
(木浦大学国語国文学科 教授 HP 参照)

「ブマシ ( )」: 農繁期における労働交換の共同組織で、ドゥレーが共同体的な組織であるとするれば、ブマシは個人的または小集団的な性格が強く、集団への拘束性は弱い。

<sup>2</sup> 「 (契)」: 相互扶助の民間共同組織。その起源は三韓時代にまで遡り、最も伝統的な共同体である。その組織と目的は一定ではなく、役割も多方面に渡る。

「郷約 ( )」: 一般農民達の日常生活を救済するように見せ、実際は両班支配層が郷村の秩序を維持し、支配するための自治規約であった。(以上は、韓国民俗学 HP 参照)

<sup>3</sup> セマウル ( ) 運動のセマウルとは「新しい村」を意味し、農村の近代化を始めとし、国民統合を図ることをねらいとしていた。朴正熙大統領の指示に基づき、開始された政策である。